

新年のごあいさつ



便利と魅力が
つまったまちづくり
〜選ばれる先進のまちを目指して〜

大河原町長 齋 清志

新年あけましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いで、つつがなく初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年も激甚化・広域化する自然災害が多発した年でしたが、東日本に記録的な大雨をもたらした台風19号の襲来がありました。本町での死者やけが人はありませんでしたが、かつてない浸水被害が発生し、その被害額は東日本大震災をも上回る規模となりました。被災された皆様には改めて心よりお見舞い申し上げます。町としても今回の教訓を活かし、自助・共助・公助がしっかりと機能するように、防災・減災の検証と対応の見直しを図ってまいります。皆様には水防災への意識改革を期待し、『命を守る』『早めの行動について十分な理解を切に願う』ところです。

一方、地方創生が叫ばれて5年が経過するところですが、残念ながら地方の人口減少は一層鮮明となり、同時に進む少子高齢化に拍車がかかっています。仙南地域では人口が17万人を割り込み、子どもの数も働き手（生産年齢人口）も大きく減少し、将来の賑わいと活力の低下が特に経済面に暗い影を落と

しています。加えて、社会環境や価値観が複雑に変化する時代となつて、人と人・人と地域・地域と地域もつながりにくいという現実が危惧されています。改めて、社会包摂に目を向けて人々を孤立させることのないように、『認めあい、支えあい、活かしあう』社会の仕組みづくりが強く求められていると感じています。

そのような中、本町にとつては新たな長期総合計画のスタートの年にふさわしい飛躍の一年であったと受け止めています。人口は過去最高の年に近づき、自然減を若い世帯が流入する社会増で補う結果となり、便利と魅力が生まれた選ばれる先進のまちとなりつつある実感が生まれています。住宅着工件数の安定した伸びや国道4号バイパスへの商業の張り付きもまた、本町の特徴と潜在力が高まった証しと受け止めているところです。

そして、ハード面では給食センターの稼働や民間保育所の開設支援、さらには県とのコラボ事業として白石川右岸河川敷整備事業が順調に進行しています。また、小中学生の学力や高齢者の健康意識など、県下トップレベルの状況の継続と、深刻な課題となつている

仙南二次医療圏の体制整備等についても、本町が中心的に牽引する役割を担っています。仙南の中心に位置し、行政・交通・商業・医療・教育文化等の拠点であることに加え、様々な有する利便性も存分に発揮しながら、小さな町でも大きな役割を果たすスーパータウンとして、今後とも期待に込めたい所存です。

さて、いよいよ東京オリ・パラ開催の年となりました。明るい話題と活力のみならず、年を願っています。この時期を社会経済環境の分岐点とする予測もあり、不透明感への警戒を怠ってはならないと受け止めています。また、台風被害への対応や公共施設の老朽化対策等も考慮しながら、健全な財政計画に則り、ハード・ソフト両面でメリハリのきいた予算建てと政策の実現に努力する所存です。

今年はず（ねずみ）年です。ねずみは真面目で環境への適応能力が高く、鋭い勘とひらめきを持ち危機管理能力に優れていると言われます。環境の変化が激しく常に危機意識が求められる現代にあつては、ねずみのごとく行動することが必須要件と言えます。防災・減災や医療・介護といった『命を守る』使命を果たしながら、広域連携の成果を意識しつつ便利と魅力が生まれた本町の特徴を活かすため、機敏な対応に磨きをかけてまいります決意をしたところです。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を祈念するとともに、本町の限らない発展と希望に満ちた一年となることを願って、新年のご挨拶とさせていただきます。

町長・町議会議長



新年あけましておめでとうございませう。皆さまにおかれましては、清々しい新年をお迎えになられたことを心より喜び申し上げます。今年一年、災害もなく平穏で有意義な一年になりますことをご祈念申し上げます。

また、大河原町議会に對しまして、常日頃より多大なご理解とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、9月20日から11月2日までのラグビーワールドカップにおきまして、日本代表は、初戦のロシア戦を30対10で勝ち上がり、当時の世界ランキングナンバー2のアイerlandを19対12で見事に撃破し、にわかラグビーファンが増えるなど国民的現象を巻き起こし、史上初のベスト8に名乗りを上げました。

残念ながら、ベスト8の南アフリカ戦は3対26で敗れましたが、ノーサイドの精神とワンチームの戦いぶりに、多くの人に勇気と感動を与えてくれました。更に昨年の世相を反映した言葉を選ぶ流行語大賞

に、日本代表のスローガン「ワンチーム」が選ばれました。

日本代表の堀江翔太選手はコメントで、「ワンチームという言葉だけではない。どういう風になれるというわけではない。どういう風にワンチームにするかが大事で、中身をしっかりと考えてこの言葉を使ってほしい」と述べられました。この言葉は、私たちの生き方の教訓にすべきだと考えております。

東日本大震災からは、8年9ヶ月が経過しました。国は平成28年度以降の5年間で復興創生期間と位置付け、必要な支援を実施しており、復興事業は着実に前に進んでおります。しかし、被災地においては地域ごとに復興の進捗状況にばらつきがあり、特に福島第一原子力発電所事故の影響を受けた地域においては、いまだ多くの被災者が故郷に帰還することが出来ず、不自由な避難生活を送っていることも事実であります。政府は、平成31年3月、東日本大震災復興基本方針を改正し、「東日本の復興なくして日本の再生なし」とし、被災地の復興事業を継続的に支援することとしました。

このようななか10月12日の令和元年台風第19号においては、広いエリアで河川の氾濫や土砂崩れなどにより、宮城県におきましても21人の死者・行方不明者が出るなど甚大な被害にありました。本町におきましても、床上浸水134件、公共施設等被害や災害ゴミ大量発生など、少なくとも9億円を超える被害額が見込まれております。

このように、地域の住民生活や経済活動に重大な影響を与える自然災害に對しての備えと、迅速な避難行動、的確な情報発信の重要性を再確認したところであります。

我が国においては、急速な少子高齢化、本格的な人口減少社会が到来し、町村の基幹産業である農林漁業の低迷や若年人口の減少により、地域経済は衰退し現在、各自自治体では創意工夫を生かした施策を盛り込んだ総合戦略等に基づいて、住民と一体になって、本格的な事業展開に取り組んでいるところでもあります。地方創生を更に深化させるためにも、その流れを加速させなければなりません。

更に、地域の課題を解決するための施策を町と議会が対等な立場でしっかりと議論していくことが、大河原町の地方創生へ繋がっていくものと信じております。

おわりに、皆さまにおかれましては、本年が充実した一年となりますことを重ねてご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

地方創生の更なる推進を目指して

大河原町議会議長

佐藤 貴久